

対象論文「住民による相隣・近隣関係の調整についての研究」

発表者 森本朝子

講評者 1. 上野浩一

研究概要

本研究は、震災後 10 年を経た神戸市長田区の協調的建替の事例を対象としている。筆者は、協調的建替を住民の積極的な協調行為としてとらえ、他の個別再建住宅と差別化し、協調的建替の具体的な経過・住民による相隣関係の調整・積極的な協調によって得られた成果を明らかにすることを目的としている。

何が得られたか

筆者は震災後から行政の各復興事業の内容と住人の動向を経年的に調べ、協調的建替が行われるまでの経緯を明らかにしている。また、協調的建替が行われた 4 戸の住宅の平面図と立面図を描き、その特徴を施主の要望によるものか・設計者の提案によるものなのか・協定によるものなのか等に分けて図化することで示された。

住民による相隣関係の調整については、アンケート調査が行われた。その結果、個別建替の相隣関係には、予め相互が影響を及ぼさないように隣地方向には極力開口部を設けないようにする事前型、近所づきあいを通して相隣関係を築こうとする事後型が見受けられた。

感想

長田は震災前、狭小過密な住環境であったが、相隣間で知恵や工夫を凝らし助け合う生活の様子が景観となって現れており、それに我々も共感したのだと思う。8 割の建物が被害を受けた震災を契機に、良好な町並みを築いていく手段の一つとして、筆者が協調的建替の可能性に着目したのは、大変意義がある。協調的建替の補助制度があっても、3 以上の敷地で、かつ 3 階建て以上といった条件や、将来の建替えの際の不安等を考えると、その数が少ないのも理解できる。その意味でも、本研究では、住人や周辺の人々が、この協調的建替えの何に魅力を感じたのか、また何ができなかったのかをもうすこし突っ込んだ方が今後の知見となりえたのではないかと考える。個人的な興味としては、震災後住宅に入ってきた駐車場の影響は大きいと思う。

(敷地の多くは、間口が狭いので)住宅外部の空間に対する住民の関与は少ないというアンケート結果が示されたが、駐車場を含め、協調するものが建物に完結せず、敷地から道路までの空気に展開していくと、新しい町並みとしての空間秩序が生まれていくのではないかと考える。

(評者 / 上野浩一)